

**『市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり』
第1回ワークショップでの質疑の内容**

No	質問	回答
1	スポーツ実施率が毎年UPしている理由は何か？特に60～70代が高い理由は？ (1グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的に60～70代は自由な時間が多く、スポーツ施設に行っても高齢の方が多く見える。若い方のスポーツ離れの問題もある。 ・実施率が上がっている原因としては、日ハム、コンサドーレ、レバンガ、エスポラーダなど札幌を拠点としたプロスポーツチームの活躍の影響が大きい。 ・ウォーキングの実施などにより裾野も広がっている。 ・25年度のウィンタースポーツ実施率が前回の11%から13%に増えたのは、ソチオリンピックでの選手の活躍が考えられる。
2	スポーツ実施状況の夏と冬の違いは把握しているか？ (1グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・夏と冬の季節では把握していないが、スポーツの種目(ウィンタースポーツ)で実施率を把握している。 ・冬場の降雪もあり、冬の実施率は低いものと思われる。
3	スポーツ全体の事業予算は？(スポーツ部)(1グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・54億→最終的には約70億ぐらい(市全体予算8,700億) ・札幌と同じ規模の都市と比較して、多いのか、少ないのか？ <p>→次回回答</p> <p>【スポーツ部回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市の平成27年度一般会計予算(補正後)は、約9,200億円。(当初予算は約8,700億円) ・このうち、スポーツ関連予算は約72億円(0.78%)。これは、振興に関する予算と、施設の維持管理に関する予算を合計したもの。 ・予算編成の違いにより、同じ考え方で他都市の予算と比較するのは困難だが、内容として、札幌市はウィンタースポーツ関連の取組という特色がある一方で、大会への支援や学校開放事業など、共通した取り組みも見られる。
4	医療費への「貢献」はどの程度？(1グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・具体の数値を示すのは難しい。 <p>【保健所補足】</p> <p>国が都市政策を検討するために実施した都市再構築戦略検討委員会では、1万人の1日あたりの歩数が2,000歩増加することにより、年間4億円の医療費抑制効果が期待できると試算結果が発表されている。</p>

5	都市部中心の施策が多い印象があるが、周辺にはどんな施策があるのか？(4グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・都心に集中している認識は無いが、スポーツイベントが多い印象があるのかもしれない。 ・周辺地域のかたが身近に行けるようなスポーツイベントについては把握していない。 <p>→次回回答</p> <p>【スポーツ部回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各区において、区役所などの主催により、施設や広場などを活用した様々なイベントが行われている。 <p>(平成 25 年度 全市で 147 大会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これらの取組について、さらに皆さんに知っていただけるよう、区役所とも連携しながら工夫していきたい。
6	障がい者が一般の人と同じ様にスポーツに参加できているのか、具体的に知りたい。(1グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・体育施設のバリアフリー化を進めている。 ・補助の方の利用料金はかからない。 ・障がい者の大会の受け入れ施設を市内で調整している。
7	「健康寿命」について、もっと具体的に説明を。(2グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・国の定義では、健康上の問題なく日常生活ができる期間。 ・計算の基礎となっている国民生活基礎調査では、個人の主観での回答が影響。
8	健康運動指導士ってどういう人？資格は？(1グループ)	<p>→次回資料 ※別添資料あり</p> <p>【保健所補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康運動指導士とは保健医療関係者と連携しつつ安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整等を行う役割を担う者。昭和 63 年から厚生大臣の認定事業として開始され、平成 18 年度からは、公益財団法人健康・体力づくり事業財団独自の事業として実施。 ・登録している健康づくりサポーターの活動は様々であり、普段はスポーツクラブ、健康づくりセンターやカルチャー講座での指導、各種団体からの依頼に応じて運動指導を実施。 ・サポーター派遣時における指導は、ストレッチ体操、筋力アップトレーニング、ウォーキング指導、あへあほ体操など、派遣希望者からの要望に応じた内容で運動指導を実施。
9	スポーツができない理由は？(きっかけの裏返し？)(1グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な要因がある。(時間がない、車移動など) ・スポーツ実施率は伸びてはいるが、目標値には届いていない。

	目標値を達成した指標はありませんでした。その原因は検証されている？(2グループ)	<p>【保健所補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終評価で、運動をしない理由をアンケートで分析しており、若い世代で「時間がない」などの理由が明らかになった。その結果も踏まえた取組の一環として、ウォーキング推進キャンペーン事業を展開した。
10	他都市で参考にしたい事例などはあるか？(4グループ)	<p>→次回回答</p> <p>【保健所回答】</p> <p>○健康ポイント事業(横浜市、岡山市など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングや、健診受診などの健康づくりに取り組んだ際に「健康ポイント」をもらうことができ、ためたポイントに応じて賞品をもらえたりする仕組みを作り、市民の健康づくりを促進している。 <p>【スポーツ部回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点で直接参考にした事例はないが、政令指定都市等のスポーツ所管部局が集まる会議が毎年定期的で開催されており、その場で情報交換を行っているほか、他都市のスポーツ施設の活用状況を視察して参考にするなど取組を実施している。
11	「健康づくりセンター」の役割は何ですか？(認知度は高いものですか？)(3グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・市内に3館(中央、西、東区)ある。市民の健康づくりが目的。 ・H24年度から、要介護候補者や障がいのある方など、特に健康づくりが重要な対象者の方々へ運動支援をしている。
12	子どもの時からスポーツの楽しさや親しむ機会づくりは？教育委員会との連携はとれている？(1グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・H10年まで教育委員会にスポーツ部があった。今も建物は教育委員会と同じ場所である。 ・小、中学の先生一人ずつがスポーツ部企画事業課の調査担当係長としてチームに入っており、教育委員会・学校を通じた取組は、その先生方と連携して行っている。
13	2つの計画の中の「子ども」とは、何歳から何歳を指すか。(2グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ：中学生以下。 ・健康づくり：すこやか親子21は、一般的には18歳未満。指標で出てくるものでは中学生以下が多い。
14	スポーツ推進計画の方針6にある「札幌の資源」とは具体的にどんなものをイメージされていますか？(3グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然、雪、食べ物、文化、芸術など。 ・オリンピックで使われた施設やプロスポーツチームも資源。

15	<p>高齢者中心の計画に見えるが、子育て世代やフルタイムで働く人（20代女子など）へのアプローチはどう考えているのか？何かしているのか？（4グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンやサークルに来るお母さん達へ向けて、健康づくりについて周知を図っている。 <p>【保健所補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代への健康づくりを進めていくために、SNSなどを利用したアンケートを実施し効果的なアプローチ方法を検討する予定。 ・若い世代への取組の一つとして、通勤通学を利用した運動習慣の定着にむけて、地下鉄階段への健康メッセージを表示。 <p>【スポーツ部補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状では、子育て世代やフルタイムで働く人に直接働きかけることを目的とした効果的な取組についてはまだ検討中の段階。今後効果的なアプローチを検討していきたい。
16	<p>他の施策（子育てなど）との連携は図られているか？（4グループ）</p>	<p>【保健所補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「健康さっぽろ21(第二次)」の取組状況の確認を関連部局と毎年実施 ・小中学校とは思春期教育での連携はあるが、健康づくりに特化した連携は今後の課題としたい。 ・上記15のとおり、子育て関連課には健康づくり事業の取組を説明し、利用勧奨や普及啓発を依頼
17	<p>全小学校のプール設置率。全中学校のプール設置率。（2グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・7～8月の土日に各学校のタイミングで開放。200/208校。 ・小学校には全校に設置。中学校はあまりプールの授業がなく、設置は9校。
18	<p>「スポーツ」の定義はどの範囲と捉えて議論したら良いのか？例えば、室内でのストレッチなども入るのか？（2グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ＝「体を動かすこと全般」 ・意図のある運動として、ストレッチも入る。 ・スポーツ実施率の対象となるのがスポーツ。 ・スキー、スケート、カーリングは1年に1回以上。 ・冬はグラウンドが使えないなど、北海道は課題がある。

19	<p>企業との連携は具体的にどんなものがあるのか？（4グループ）</p>	<p>健康づくり：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングマップを作成する際には、STV のラジオ番組でコーナーを取り上げて、中継してもらった。 ・「健康づくり推進協議会」のなかには、商工会議所も入っている ・3月に連携企業 10 数社が集まってラウンドテーブル。 <p>スポーツ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ウィンタースポーツ活性化協議会」の場に、スキー場事業者にラウンドテーブルに参加してもらっている。 ・北海道銀行に協賛金をいただいて、カーリングの普及推進事業にあてている。
20	<p>スポーツを取り巻く課題について、区ごとに状況が異なる中、どのような課題があり、どのような取組がされているのか？（2グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区ごとの施策としては把握していない。 <p>→次回補足</p> <p>【スポーツ部補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの各区スポーツ推進委員の会議において、それぞれの区に特化した課題は今のところ挙げられていない。 ・一方、担い手の高齢化といった共通の課題がある中で、スポーツ施設などの資源を活用しながら、様々な取組が行われている。
21	<p>「スポーツ振興基金助成金」はどのような内容か。（2グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際大会などに出場する市民に補助する。昨年 57 件。 ・地域で主催する大会や教室に補助する。昨年 23 件。
22	<p>広報が大事だが、どう伝えているのか？特に引きこもりがちな人にどう情報を届ける工夫をしているのか？（1グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報さっぽろ以外では、指定管理者の団体 HP で紹介したり、各体育館などの場所でチラシを配架している。
23	<p>健康づくりサポーターはどうやったら参加できるのか？どう情報発信しているのか？（4グループ）</p> <p>サポーター派遣事業は人口に対して回数が少ない。告知はどのようにしている？（2グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートする専門家は 45 人登録。ホームページや広報さっぽろやチラシで情報発信している。サポートを受けたい人が増えなければサポーターの活躍の場がないので、十分な人数が集まっていると認識している。 ・サポートを受けたい人への周知を今後進める必要がある。事業の周知はチラシよりも口コミが有効と考えている。今年度は役所内のネットワークを活用し、区の地域振興や子育て担当の課や保健センターの健康づくり担当等へ事業の説明をして、町内会や子育てサロン等を通じて様々な世代

		<p>に行き渡るようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H27 年度は 180 回／年の派遣を見込んでいるので、さらに周知をすすめたい。
24	<p>アンケート 5,000 人は札幌市の人口に対して適切な数値なのか？18 歳以上 3,000 人。何人に対して何%の人に郵送？（2 グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に聞いた方が良いが、数が多くなるとその分お金もかかる。人口に対して適切な数値かどうか、あらためて調べてみたい。 <p>→次回補足</p> <p>【改革推進部補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標達成度調査では、20 歳以上の成人市民 5,000 人にアンケートを行っているが、統計学上は標本数（アンケートの返送数）が 400 件あれば、95%の信頼度が得られるとされている。26 年度は、標本数が 2,002 件あったため、回答の信頼度は十分満たしている。また、過去の当該調査実績を踏まえ、400 件を下回らないという安全性の観点から 5,000 人という数値は、適切だと考えている。アンケートを実施した 26 年度の 20 歳以上の人口はおおよそ 162 万人であり、約 0.3%に郵送している。 ・市民の運動・スポーツ活動実態調査では、18 歳以上の市民 3,000 人にアンケートを行っている。18 歳以上の人口はおおよそ 163 万人(アンケートを実施した平成 24 年時点)であるため、約 0.2%に郵送している。
25	<p>「スポーツ元気都市さっぽろ」の達成度をはかる指標はありますか？（例、子どもの運動能力が北海道は低いとよくテレビでみるが、それを 10 位以内にするなど）（3 グループ）</p>	<p>【スポーツ部補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在のところ、スポーツ実施率などスポーツ推進計画に掲げた指標をもってその達成度をはかることとしており、他都市との比較については指標に設定していない。
26	<p>「目標値」の数字の根拠は？（4 グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国の基本計画の目標値 65%（3 人に 2 人）を参考とした。 ・各指標の数字の上昇、下降原因は今後検証する必要がある。
27	<p>ロコモティブシンドローム。なぜ、目標値が 80%？（2 グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国：健康日本 21 で 80%を設定。 ・メタボリックシンドロームという言葉の認知度は 80%を目標に推進。➡92.7%になった。

28	<p>スポーツ推進計画の成果指標、10大会はどのような競技？（2グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2015：FIS ノルディックコンバインドワールドカップ。世界女子カーリング選手権（札幌初）。冬季種目を中心とした開催を予定。 ・2017：冬季アジア札幌大会、2018：日本スポーツマスターズ（札幌初）、2019：ラグビーワールドカップ、2020：オリンピックサッカー予選。 ・冬季種目を中心とした開催を予定。
----	---	--